

会社を強くするパーソナリティ マネジメント

一橋克也 著

単行本：168 ページ

出版：セルバ出版

価格：1,500 円（税抜）

はじめに

パーソナリティとは人が必ず心の中に抱えている内面のことです。事業承継、倒産、社労士として開業という激動の人生を歩んできた筆者による、明日から使える本質的なマネジメント方法が本書では解説されています。



よい面も悪い面も両方、自分はすべて持っている。ということとは、矛盾している、相反している部分もたくさん持っていることになります。

なぜこのような矛盾が生じてしまうのか。それは、人は自分が置かれている状況によって出現するパーソナリティが変化するためです。

自分のパーソナリティを解き明かす

具体的にパーソナリティとはどういったものなのでしょう。自分の性格やこだわりを何か1つ想像してみてください。真面目であるとか、社交的であるとか、面倒くさがりであるとか、人によって色々なイメージが浮かんでくると思います。

想像した時に思い当たる自身のパーソナリティがプライベートモードのものなのか、ビジネスモードのものなのかを把握する必要があります。どちらにも共通しているという場合もあるでしょう。意外とプライベートとビジネスでパーソナリティに変化があることを認識していない方が多いのだと筆者は言っています。

ビジネスにおいて無理に自分を演じていたり、こだわりを無意識のうちに抑圧していたりする可能性があります。全て自分の好きなように、思い通りにとはもちろんいきませんが、まずは自分の内面性を理解することがパーソナリティマネジメントの第一歩と言えるでしょう。

パーソナリティは相反している

例えば、先ほど挙げたパーソナリティの例の中に「真面目である」というものがありました。この言葉の反対といえば「不真面目である」になりますね。

筆者は文中でこのように述べています。

「真面目である」というパーソナリティを24時間・365日ずっと徹底している人はほとんど存在しません。真面目な自分もいれば、時として不真面目な自分もいる。1つのパーソナリティに頑なに固執せず、相反する面を持っていることを受け入れましょう。相反する自らのパーソナリティを認識することで、物事を選択する時に今までよりも正確に自身をコントロールすることが可能になります。

パーソナリティマネジメントの 活かし方

さて、実際にどうやって会社の中でパーソナリティマネジメントを活用するのかについてですが、こればかりは本書を実際に読んでいただくほかにはありません。

活用できる場面としては採用、教育、人事評価、行動改善など非常に幅が広く、ほぼあらゆる領域をフォロー可能なマネジメント方法です。本書内にはSPシートという簡単なワーク用のページもあり、こちらを利用していただくことで目に見える形で社内の色々な要素改善に繋げることができるのも魅力と言えるでしょう。

パーソナリティそのもの、そしてパーソナリティマネジメントを学ぶことで論理的かつ感情に訴えかける思考や行動を手に入れることができます。経営者の方はもちろん、社内で人事に携わる方に特におすすめの一冊です。